

公益財団法人 豊田都市交通研究所 研究成果報告会

# 2021年度 研究活動概要

研究部長 安藤良輔

2022年7月5日（火）  
豊田産業文化センター小ホール

1

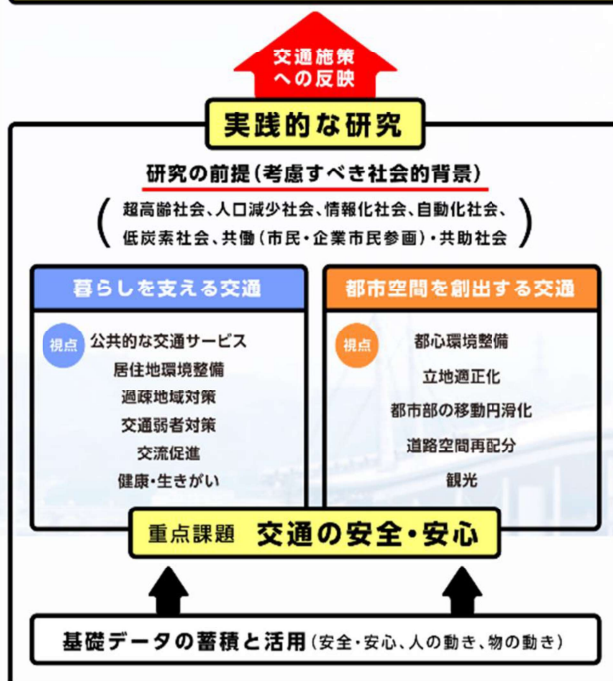
## 目次

- 1 2018年度からの中期ビジョン
- 2 2021年度(4年目)研究テーマ一覧(配布)
- 3 研究所評価プロセス
- 4 評価結果
- 5 研究活動の総評

2

### サステナブルなモビリティ社会の実現

## 1.2018年度 からの 中期ビジョン (研究員:10人体制)



3

## 1.2018年度からの中期ビジョン

### 研究所の事業

- (1) 調査・研究事業: 政策につながる学術的かつ実践的研究の実施
- (2) 政策提言事業: 研究成果に基づく政策の提言
- (3) 情報発信・交流事業: 国内外への研究成果の発信・先進的知見の収集と発信

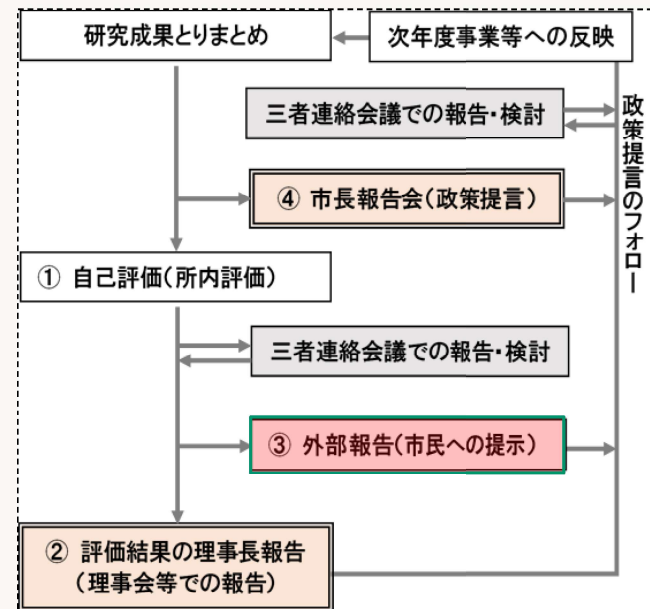
4

## 2. 2021年度研究テーマ一覧(配布)

- ① 研究員：8.2人（1人が年度途中で転出した）
- ② 自主研究8件（2020年度：12件）+受託研究12件（2020年度：19件）
- ③ 「暮らしを支える交通」：自主3+受託4；「都市空間を創出する交通」：自主2+受託1；「交通の安全・安心」：自主3+受託7
- ④ 当面の重点課題である「交通の安全・安心」の受託が7件にもなり、受託の半分以上を占めており、依然として社会的に需要の多い課題であることを裏付けられる。
- ⑤ 本日の報告（各研究グループから1件）
  - 1.テレマティクス自動車保険（楊主席研究員）→高齢者の安全な自動車利用のために
  - 2.駅前大型店舗閉店と都心の流動（加藤主席研究員）→新しい手法の可能性を探る
  - 3.コロナ禍が豊田市の都市交通に与える影響（三村主幹研究員）→社会事情を踏まえた取り組み

5

## 3. 研究所評価プロセス



6

## 4. 評価指標を用いた評価結果

| 役割            | 評価指標                                   | 2016-18年度    | 2019年度   | 2020年度   | 2021年度   |
|---------------|----------------------------------------|--------------|----------|----------|----------|
| ① 広義の都市交通の研究  | 1) 外部学会誌・論文集等で発表した査読付き論文数              | 17.3         | 23       | 12       | 18       |
|               | 2) 上記を除くその他学会・協会等で発表した論文数              | 20.7         | 19       | 22       | 14       |
|               | 3) 論文賞等の受賞                             | 0.7          | 1        | 3        | 1        |
|               | 4) 競争的研究資金の獲得件数【科研費】                   | 1.3          | 2        | 4        | 4        |
|               | 競争的研究資金の獲得件数【その他】                      | 3            | 4        | 1        | 2        |
| ② 交通まちづくりの推進  | 5) 市（地域）への政策提案件数                       | 9            | 11       | 14       | 14       |
|               | 6) 受託研究の受注件数（件）                        | 18           | 19       | 19       | 12       |
|               | 7) 地域に関わる研究テーマの件数                      | 21.7         | 26       | 27       | 20       |
|               | 8) 地域活動への貢献【委員・大学等講師】<br>【講演】          | 39.3<br>26.7 | 36<br>34 | 36<br>10 | 39<br>14 |
| ③ 世界への情報発信と貢献 | 9) 国際会議での論文発表件数                        | 14           | 16       | 4        | 5        |
|               | 10) 国際セミナー・シンポジウムの開催                   | 0.3          | 0        | 0        | 0        |
|               | 11) 国際的な調査プロジェクトの実施                    | 0.3          | 1        | 1        | 2        |
|               | 12) 機関紙・年報の定期発行                        | 5            | 5        | 5        | 5        |
|               | 13) シンポジウム・報告発表会・講習会・セミナー等の開催回数、イベント出席 | 14           | 16       | 10       | 14       |
|               | 14) 各種行事記録集の発行：種類                      | 1.7          | 3        | 2        | 3        |
|               | 15) マスコミの露出度：報道・出演回数                   | 9            | 5        | 2        | 2        |

7

### 5-1. 研究活動の総評

- 1.国際ジャーナルへの投稿やオンラインで参加する国際会議での論文発表に対応し、査読付き論文数や国際会議での論文発表件数の増加に繋がるとともに、科学研究費補助金や外部資金の獲得件数を維持・向上させられたことは評価できていると考えています。
- ① 自主・受託研究のほか、科学研究費助成事業については、大学研究者等の平均的な採択水準よりも高い採択率で獲得することが出来て、3件を研究代表者として、1件を研究分担者として研究を行った。
- ② また、大林財団、交通エコロジー・モビリティ財団、三井住友海上福祉財団の研究助成を受けて、研究代表者として実施した。
- ③ 高い評価につながる査読付きの論文数は、2018年度以前のレベルまでに戻した。

8

## 5-2. 研究活動の総評

2.地域活動への貢献数が増加し、市等への政策提案件数を維持する一方、受託研究や地域に関わる研究テーマ件数が減少していることから、研究活動の見直しの検討も必要であると考えます。

3.感染症対策を行いながら開催した設立30周年記念シンポジウムや同時期に実施した豊田市図書館との連携事業のほか、オンライン会議に対応することで講演活動等が増加し、コロナ禍に対応した情報発信ができました。

**ご清聴どうもありがとうございました。**